

## 2025 年度 看護職員の負担軽減及び処遇の改善に資する計画

課題	看護師の業務内容の見直し・整備により、看護補助者への看護業務のタスクシフトを推進する
現状	地域包括ケア病棟の看護補助体制充実加算算定に伴い看護補助者の充実配置が実現できた。看護補助者の採用と定着に向けた取り組みを実践し人材の確保につながっている。一般病棟への看護補助者配置数も 2025 年度は前年度比+2.0(3.5⇒5.5)拡大できる予定である。看護部では業務委員会を中心に看護補助者へのタスクシフト/シェアを推進しており、療養上の世話の判断基準の見直しや新たなタスクシフト業務を洗い出して手順書の整備や教育の準備を実施している。看護補助者によっては内視鏡の洗浄業務のように独占業務となっているものもあり、業務委譲できる職員の拡大が必要である。また、タスクシフトの成果の見える化をすることで効率的・効果的な人材活用の現状を評価していく必要がある。
指標	新たな業務の委譲や業務可能な人材を拡大することができる
水準 指標 要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新たな看護業務をタスクシフトできる</li> <li>2. 役割業務の拡大を図ることができる。(内視鏡洗浄担当者の拡大)</li> <li>3. 5 階病棟のタスクシフト実績が 2024 年度の 1.5 倍となる</li> </ol> <p style="color: red;">上記の取り組み目標期限を 2026 年 3 月末とする。(2026 年 1 月 22 日追記)</p>
計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護部業務委員会で新たなタスクシフトを検討し手順書整備や教育を担い拡大する</li> <li>2. 業務拡大実施状況のデータ収集と分析</li> <li>3. 内視鏡洗浄業務の教育・トレーニング</li> <li>4. タスクシフト実施データの収集と分析・評価、フィードバック</li> </ol>
評価	<p><b>【水準・指標要件1】</b> 看護部業務委員会主導のもと新たな看護業務をタスクシフトするための手順書の作成と看護補助者教育を行い、『注射台の物品補充』と『包交車の物品点検・補充』の毎日の点検・補充業務を1月からタスクシフトすることができた。</p> <p><b>【水準・指標要件2】</b> 内視鏡洗浄担当者拡大のために動機づけを行い6月より新たな担当者を拡大すべくトレーニングを開始した。年度末までに2名の再トレーニングと1名のトレーニングを行い担当者の拡大ができた。</p> <p><b>【水準・指標要件3】</b> 70,010分(約1167時間)の1.5倍の105,015分(約1750時間)を目標値として設定しタスクシフト実績データを収集した。11月からは5階病棟が地域包括ケア病棟に変換となり看護補助者を新たに2名採用したことで各部署の配置を再検討し、5階の看護補助者の配置人数が5.2→10.2に増加した影響もありタスクシフト合計時間は1995.5時間となり170%の増加で目標は大きく達成できた。3階病棟は6.4⇒3に減少したもののタスクシフト時間は1750時間(前年2083.5時間)の16%減にとどまった。</p> <p><b>*ただし2025年度は11か月のデータである</b></p>

以上